7月園だより

２０１９年度 年主題〈ことばに満たされて～ひびきあう〉

1･2歳児７月主題「触れてみる」

月のねがい

◎神様に守られている園生活を喜ぶ
◎絵本や歌を通して言葉の豊かさに触れる
◎保育者の援助を受けながら、
　自分の思いを伝えようとする
◎水や砂、土に触れて感触を楽しむ

3･4･5歳児７月主題　「試す」

月のねがい

◎祈りたい気持ちが芽生え、表わそうとする
◎たっぷりとした時間の中で試したり、考えたり、
　失敗してももう一度やってみようとする、
◎楽しい事を重ねる中で、様々な事への興味関心を広げる
◎砂場遊びや造形を通して、創造することや表現することを楽しむ

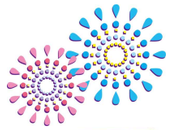
今月の聖句

すべてのことにおいて感謝しなさい。

Ⅰテサロニケ5：18

この言葉は切離せない３句で構成されています。その句を再掲します。
「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」と続きます。「これこそ神が望んでおられることなのです」19で結んでいます。祈りは三つを結ぶキーワードです。
本学園では、開設以来「主の祈り」を取り入れております。呪文の様なことばを唱えて何の教育的価値があるのかという批判もありますが、これは教育内容としてではなく、霊魂をもつ人間の霊的活動として理解しましょう。祈りは訴えであり語りかけであり、神との交わりです。ちなみに、主の祈りはキリストさまが直接教えてくださったものです。
主の祈り第１　神様に呼びかけるための祈り　「天にましますわれら父よ」
主の祈り第２　新天新地を求める祈り　「名をあがめさせ給え　み国を来たらせ給え　み心の天になるごとく　地にもなさせ給え（平和に関する意味も含まれます。）
主の祈り第３　衣食住の必要を求める祈り　「我らに必要な日々の糧を今日も与え給え」
主の祈り第４　罪を許しあうための祈り　「我らに罪を犯す者を赦す如く我らの罪をも赦し給え」
主の祈り第５　悪より救われるための祈り　「我らを試みに合わせず悪より救い出し給え」
以上の祈りに支えられれば如何なる困難も聖化されて喜びと感謝にかられます。

牧師・前理事長　池田公栄



７月の行事予定

2 日（火）	海遊び（４・５才児）・弁当日
8 日（月）	プール遊び（市営プール）
10 日（水）	海遊び（２・３才児）
13･14 日	お泊り保育（年長児）
16 日（火）	誕生会（２才以上児６～８月生）
〃	弁当日
19 日（金）	一学期終園日（１号午前保育）

８月の行事予定

1 日（木）	夏季保育（１号午前保育）
3 日（土）	夕涼み会
13 ～ 15 日	弁当日（２・３号のみ）
21 日（水）	夏季保育（１号午前保育）

暑いあつい夏の到来！

7月、梅雨が明ける頃になると、夏の日差しを受け、木々の葉が色濃くなり、光と影のコントラストもはっきりして世界が生き生きとしてくるように感じます。それに合わせるかのように、子どもたちの活動も生き生きとしてくる時です。

気温が上昇し始めると、気になるのが汗対策です。ちょっと動いただけでも汗が吹き出し、顔を真っ赤にする子どもたちは、汗の処理をしっかりしておかないと、あせもやとびひになります。

暑いと感じると、脳から自律神経に指令が伝わり、汗を出す事によって体温を調整してくれます。こうした体の仕組みを受けて上手に汗をかきながら、日々の生活の中で汗の処理も覚えていくことが、自立した体つくりにつながっていくのだと思います。そうはいっても、まだまだ小さいうちは汗の処理がうまくいかず、あせもになりがちですね。

私の小さい頃の体験です。幼稚園の先生と友だちで散歩をした時、木陰に腰をおろし帽子をとって、先生が「おでこが汗でびっしょりになったね。髪の毛をかきあげて汗を拭いてごらん!」といわれました。そのとおりにすると、木陰の風が優しくおでこにあたり、『ほんと、気持ちいいな～!』と感じたことを覚えています。子どもたちにも、たくさん遊んで汗をかいた後、気持ちのいいと思える感覚を是非とも獲得してほしいものです。

7月は、天気ともにらめっこしながら、水遊びやプール遊びを楽しみます。そして、種子島のきれいな海にも出かけて行って、ダイナミックに体を動かして遊びたいと思いますます。いっぱい遊んで疲れた体には、十分な食事と睡眠で、夏を乗り切る元気な体つくりにご協力ください。そして、汗で着替えも増え、洗濯物の量も増えてきます。 毎日のお洗濯でお世話をかけますが、どうぞご協力お願いいたします

園 長

太陽と水と砂の子どもたち

”笹の葉さらさら　軒端に揺れる♪”子どもたちの元気な歌声が聞こえてきます。軒端（のきば）なんて言葉もさっぱり聞かなくなりましたね。床の間や縁側なんて言葉、子どもたちは知っているのかな？梅雨明けが待ち遠しい今日この頃です。

さて、雨も気になりますが、早速今週は海遊びが計画されています。種子島の宝である大自然に飛び込んで、夏ならではのダイナミックなあそびを楽しんでいきたいと思います。過日、多くの保育施設を設計しておられる日比野　拓氏の講演を聴きました。氏が関わった保育施設（阿久根めぐみこども園もその一つ）はどれも素晴らしく、子どもファーストの夢に溢れた空間が創られていました。園舎も素晴らしかったのですが、なんといってもダイナミックで工夫に富んだ園庭設計には胸が高鳴りました。子どもたちが遊びの中で、熱中するルーティーンを見つけ出す過程はとても大切です。「そうきたか！」と唸らせる発想に驚かされます。シンプルな繰り返しが「あしたもしようね！」の合い言葉を生み出すのです。横一列の達成度より、自らが探求していく姿が尊く美しいと思います。氏が言われた「好奇心を奪わないで！」の言葉に何度も頷いてしまいました。本学園の二園とも子どもたちが体を動かす環境には恵まれていると自負しております。特に起伏に富んだ地形は、無意識に運動量が確保され、身体の発達とともに、思考力や学びへのめばえを与えてくれる財産だと感謝しています。

今月の三歳未満児の保育主題は「触れてみる」です。水や砂、土に触れいろいろな感触を楽しみます。中でも水は最強の魅力的な玩具。水たまりの水、水道の水。こぼれたコップの水、ガラスについた水滴…。確かにあるのに掴めない、終わりなく変化していく不思議な存在に執着していきます。また、3歳以上児の主題は「試す」です。簡単に言えば、気になるコトやモノに興味・関心を持ち、まずはやってみることでしょうか。少々大げさですが、ある子どもにとっては、「お泊まり保育」は”試練”の一つかもしれません。しかし、この試練を成し遂げた後に訪れる”達成感”は、大きな”自信”という賜物になることでしょう。

海や川、山や野原で走り回り、カニや小魚やカブトムシを追いかける。時にはロケットが飛んでいく姿を見上げる。人生の基盤となるこの時期を、家族や友だちと種子島で過ごす子どもたち…なんて素晴らしい時間を与えられたことか。どうぞ宝物のような瞬間を皆さんで楽しんでください。子どもたちのために今できることを、皆さんが共に整えてくださることに心から感謝いたします。この夏も子どもたちと共に暑さを乗り切っていきましょう。

学園長

≪ 子どもと一緒に遊ぼう　PartⅢ　「パズル」≫

何とも頼もしい表情です。ジグソーパズルをしている彼女の脳の中では、一体どんな発達が進んでいるのでしょう？完成図を予想する想像力、全体と部分を見る観察力、形の認識、色の認識、数の認識、ピースをはめる手先の器用さなどが活発に働き、これらを総動員して「集中して考える力」が培われています。こども園でも「どこからやったらいいの？」「ここは何色？」「これはどこ？」と質問攻めで「できなーい！」から「わかった！」「あと３つだ！」「できるよ！」と言えるようになるまで子どもたちは自ら何度も何度も繰り返し習得しています。そして友だちにも上手に説明していたりします。こうした体験を積むことで、記憶力や論理的に考える力、そして言葉で伝える言語理解も豊かに育まれているように思います。

パズルには様々な種類があり、1歳未満から楽しめるのが1枚ピース。〇△□の型はめパズルです。①図は円柱差しもついていて、達成感を体験しやすい楽しい玩具です。また1歳から2歳にかけては②図のような2枚パズルから6枚パズル、12枚パズルなど子どもの興味に合わせてピース数を増やしていくこともができます。③図の型はめパズルは回転盤になっていて、子どもの興味のあるものを〇板の下にそれぞれ隠して記憶させ、回転させて位置を変えるという空間の変化にも対応できる記憶力を育てることを目的とした玩具です。

その他にも、全体と部分の構成を触覚と視覚で判断することを目的とした④⑤や、二次元（平面）と三次元（立体）の具体的な理解を目的とした⑥のギアパズルなどもあります。どのパズルも色・形・数、そして大小長短等にも興味が持てる作りになっていて、幼児期に獲得しておきたい様々な概念理解の能力がグングン伸びていきます。お子さんの新たな能力にきっと驚かされるでしょう（当園でも展開している玩具を紹介しました）。

木口屋　恵子